

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 30

事業所番号	2690900259		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都向島の家		
所在地	京都府京都市伏見区向島庚申町32-5		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成31年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設はこの2月でオープンから5年を迎える事となります。最近になって小学校の生徒さんと利用者様との交流やボランティアの方々、近隣の方々との交流が増えました。利用者様には普段から御自身で出来る事はして頂きながらも職員に何でも話せる環境作りと毎日、何かと笑えることがある笑顔の絶えない暮らしの支えになれば私達職員も毎日楽しくなるんじゃないかな・・・そうするには何がいいかな?どんな企画があるかな?こんなことをしてあげたいなと考え私達も色々情報収集し自身の勉強にもなりそして利用者様に喜んで頂けたならそれが明日からの糧になる。そんな風にお互いに元気の源になればいいなと思っております。今年度はもっともっと外からたくさんの方に来ていただいて楽しくお過ごしいただける様な事を考えていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市の南部伏見区向島地域の落ち着いた住宅街に建つ3階建て、開設満5年になる2ユニットのグループホームである。管理者はじめ職員は開設以来勤務している人もあり、職員は働きやすい職場だという。常勤職員が多い点、年代は比較的高く、介護職経験年数も長い人が多い点、介護福祉士も多い点等、職員体制が整っており、役割分担しながら理念の実践に励んでいる。利用者は要介護度が低く元気な人が多いものの認知症ステージが比較的高い人が多い。利用者は暮らしのなかで自由に発言し、行動している。食べ終わった食器を洗う人、玄関にある自販機に好きなコーヒーを買いに行く人、塗り絵に夢中で部屋にこもって仕上げる人、職員に新聞の天声人語やスポーツ欄等に入った個所を読んでもらう人、食材の買物に行く職員について行って自分が買いたいものを買う人、誕生日には職員と2人で寿司を食べに行く人、お化粧やおしゃれをする人等このホームには一人ひとりの利用者の自由な暮らしがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週、本部より送られてくる朝礼により職員全員が認識実践出来る様に努力している。	グループホームの理念「待つことを大切に余裕のある介護、無理なこととあきらめない介護、まず自分を知り、その人を知る、理解の介護」を定め、ホーム内に掲示している。利用者や家族、地域の人や運営推進会議の委員に周知を図っている。新入職員に研修、日常的に会議等で話し合い、実践に努めている。職員は一人ひとりの利用者の思いを聞き、その人の喜びや悲しみに寄り添い、支援したいと常に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の防災訓練等に参加したり近くの小学校の生徒さんとの交流もあり少しずつ地域の方へも受け入れて頂いている。利用者様も楽しみにされている。	利用者はふだんホームのまわりを散歩し出会う人と会話している。町内会に加入、地域の行事の情報を得ている。地域の防災訓練に参加している。ホームの玄関ポーチに町内会の掲示板を置いたり、地域の人のごみ置き場に提供している。近くの小学校で地域の会議が開催されるときに駐車場として提供している。近くの向島小学校の4年生の社会見学を受け入れている。その子どもたちが合唱、手品、ゲーム等をホームで見せてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の生徒さんの社会見学の場として施設の開放や集会時には駐車場の貸し出した町内の掲示板の設置場所を貸し出し協力をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状や行事、問題点などを報告し参加者からご意見を頂戴し施設運営に活かしている。	利用者、町内会長、学区社協会長、ケースワーカー、地域包括支援センターが委員となり年6回開催、議事録を残している。ホームから利用状況、行事、事故・ヒヤリハット、職員研修等を報告後意見交換している。地域の情報提供、災害時に避難場所やどのように避難するか、救急時の病院との対応等の意見やアドバイスをもらっている。この会議から向島小学校との連携が生まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当ケースワーカーと密に連絡を取り運営推進会議にも参加いただいている。	市や区とは報告、相談を欠かさず、日常的に連携を取っている。市福祉事務所のケースワーカーとも連携している。地域ケア会議に参加している。向島地区のグループホーム同士の連絡会に参加し、他のホームの見学や取組から学んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践	防犯上の為、女間の施設を行きエレベーター	身体拘束をテーマにした職員研修を年2回実施、	グループホームの利用者は2階と3階にい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて	防犯カメラの設置や防犯センサーの暗証番号を設置している。外出や他のフロアへの異動は希望があれば職員が同行している。	身体拘束委員会では毎月話し合っている。居室にセンサーがあり、夜間の見守りをしている。玄関ドアと1階の非常口は施錠していない。エレベーターはキロック、2階と3階の非常口は施錠している。	るので外部や他の階へは職員に言わないと行くことができない。職員の話し合いにより日中の一定時間、施錠を外すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内社外の研修を通して認識及び理解を深め実践に努めている。また職員同士のカンファレンスや管理者からの個人面談を密にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者が後見人や日常生活自立支援事業を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を心がけ御不明な点があればいつでも聞いていただける様説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には個別で話を伺う時間を取っておりご家族様の面会時等にはケアに対する要望等を聞きプランに組みこんでいる。また運営に対することや苦情等も投書出来るよう意見箱を設置している。	面会に来る家族は毎週2回くる人もある。ホームの行事に参加する家族はいない。家族同士の交流の機会はつくっていない。家族には行事のカラー写真を多数掲載し、担当職員が利用者ごとのその月の様子を手書きで書いた「たより」を毎月送付し、家族に喜ばれている。家族の意見は聞けていない。	家族はホームの職員と共に利用者を支える車の両輪である。家族には行事報告だけでなく、行事に参加してもらうようお誘いをする事、広報誌で職員紹介や献立を知らせること、家族交流の機会をつくること、以上の3点が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や個人面談等で意見や提案を聞く機会を設けている。	職員会議を毎月開催、運営について話し合うと共に年間プログラムによる研修を実施している。身体拘束、虐待防止、褥瘡予防、ターミナルケア、倫理法令、非常災害、食中毒予防等必要なテーマを取り上げている。ケースカンファレンスはフロアごとに実施している。職員は利用者を担当すると共に広報、食事、備品、身体拘束等の委員や係を受け持っている。管理者は日常的に職員から忌憚のない意見を聞こうと努めている。地域のグループホーム連絡会や地域ケア会議に職員も参加、交流により学びをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指し何でも話せ相談できる職場を目指している。やる気があり向上心のある方には研修等を受けて社員としてのステップアップの道もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトを調整し希望があれば積極的に参加できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所の運営推進会議やクリスマス会などに職員と参加し他の施設を見る事により勉強させて頂く良い繋がりが持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者個々の性格を見極め様子観察をし本人自身が困っていることの要望を言えない利用者には個別にこちらから本人に聞くようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とは連絡を密にとり家族様のご意向も聞き安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して御本人の状態を把握し御家族様からも要望を聞き出しサービス内容を説明、検討した上で決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で職員と何でも話せる関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など御家族様と職員とで情報交換し出来るだけ御本人と御家族様の時間を持っていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪された時はゆっくりと話せる場所を提供し談笑して頂けるようにしている。	利用者の友人が面会に来て、利用者は喜んでおしゃべりしている。他の実践例はない。	利用者はグループホームで人生の最後の段階を過ごしている。以前かわいがっていた甥や姪、近所付き合いをしていた人、友人等しばらく会っていないけれど気になり、会ってみたい。以前住んでいた家、夫や妻と初めて出会った場所、毎年花見をしていた所、よく見に行った祭り、お気に入りのレストランや喫茶店等、もう一度行ってみたい場所がある。このような利用者が会いたい人、行きたい場所等の思いを支援することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや散歩やドライブ等で利用者様同士が交流を持てるような支援を目指している。また人間関係をよく観察しリビングルームでの席の配置に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された御家族様からの相談等もあり関係性を大切にしながら相談しやすい体制を準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人との会話の中から好きなもの好きな事などの情報を得られるよう努力し可能な事は御家族様に御相談し支援している。	契約時には管理者が面談、利用者が入居するとケアマネジャーや計画作成担当者がアセスメントし、利用者の暮らしへの思いを聞いている。「家で一人暮らしは心配、ここで安心して暮らしたい」「みんなと一緒に楽しく過ごしたい」「物忘れしないようにしたい」等、利用者それぞれの思いを聴取している。子どものとき養女にもらわれた、現役の時紳士服のテーラー、お好み焼き屋をしていた、好きなことは塗り絵、演歌等、利用者の生活歴はとぎれとぎれで非常に情報が少ない。	長い人生を過ごしてきた利用者の生活を支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。出身地や生家、父母や兄弟姉妹のこと、子ども時代、現役の時の仕事や活動、趣味、仕事仲間、友人、夫や妻の仕事、子どものこと等の結婚生活、こういった情報を収集することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや御家族様からの情報も得られるが御本人との会話の中からも情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の申し送りカンファレンスその他記録等で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様の面会時など介護に関する要望などをお聞きして最もふさわしいと思えるケアプランを作成している。職員同士でも意見交換をしている。	ケアマネジャーと計画作成担当者が家族の希望や職員の意見を聞き介護計画を作成している。介護計画は「バイタル」「食事摂取の見守り」「入浴時洗身」「歩行見守り」等多くの利用者に共通の項目が多い。暮らしの楽しみは「他の利用者との会話」「レク」「洗濯物たたみ」等であり、楽しみの項目がない人もある。介護記録は食事量、水分量、バイタル、排泄記録等のデータと利用者の様子を簡単に書いており、介護計画を実施したかどうかは点検表だけである。モニタリングは長期目標、短期目標の点検であり、介護計画の評価になっていない。	介護計画は利用者ごとに個別で具体的なものであり、すべての利用者に暮らしの中の楽しみの項目を入れること、介護記録は生活のデータだけでなく、介護計画を実施したときの利用者の表情や発言を、拒否があったときはその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは介護計画について「実施状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について点検、記録し、介護計画の評価となるようにすること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かいことでも確実に申し送りをし情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、月一度の訪問理容サービスを実施する等ニーズに応じて柔軟に対応するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学生児童の訪問や防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は月に一度の訪問診療を受けており病院ともよい関係を築けている。	利用者は向島病院の内科医師に毎月往診してもらっている。入院は金井病院やその紹介先の病院となる。訪問歯科医を利用、定期健診を受けている。認知症は黄檗病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が来るため何かあれば相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より提携病院や近隣の病院の地域連携室とは密に連携を取り情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人にとって最も良いと考えられる方法や御家族様の意向も受け入れつつ施設で出来ること出来ないことを説明し理解して頂いたうえで可能である限り支援させていただく。	利用者の重度化や終末期の対応に関して利用者や家族に契約時に口頭で説明し、その時点での意向を把握している。利用者が医療処置が必要でない場合、最大限できる対応をすること、医師の協力は得られないためホームでの看取りは困難であることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応する。急変や事故発生時には責任者、防災管理委員に連絡を入れ提携病院の指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い消防立会いの元避難方法や消火器の使い方の訓練をしている。	消防署の協力のもと火災想定避難訓練を年2回実施している。その際に地域の人の協力は得られていない。地震、風水害、夜間帯の避難訓練は実施していない。地域の防災訓練に参加、かなり遠い避難場所まで歩いている。備蓄は準備、ハザードマップはスタッフ室に掲示、職員は危険箇所を認識している。災害時の緊急対応マニュアルと職員連絡網を作成している。法人内の相互協力体制の規定はない。	避難訓練は職員の身に付くように火災だけでなく、地震、風水義、夜間帯を含めて年数回実施すること、その際地域の人の協力が得られるようにすること、法人内相互協力体制の規定を策定すること、以上の3点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し声掛けを行っている。	利用者の行動や表情から何を思っているかを判断し、声をかけたり、対応をしている。呼び掛け方は名字のさん付けや下の名前や希望者には「…ちゃん」もあり、利用者が気に入る呼び方になっている。起床して着る服やお茶の時間の飲み物は利用者が選んでいる。訪問美容師が来訪し利用者はカット、カラー、髭剃り等自分の好みを依頼している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話の中から思いや希望を聞きながら自己決定ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。	一人一人のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容が来られ希望者は好みの髪型にカットされている。好みの服をご自分で選ばれたり職員と一緒に選ばれる方、職員に任せる方などがおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみメニューや月に一度手作りランチを提供し楽しんでいただけるようにしている。	食材の買物は業務スーパーに毎週出かけて、朝食は在庫の食材をみて夜勤者が手作りしている。昼食と夕食はご飯とみそ汁をユニットで手作りし、主菜はカロリー値や栄養バランスを点検した調理済を購入している。高齢者の食べ慣れた和風メニュー、魚と肉や野菜等バランスがとれており、季節感がある。おせち料理やひな祭り等のメニューもある。時にはみんなでお好み焼きやたこ焼きを作ったり、外食に出かけることもある。利用者は数人ずつが食卓を囲み食事を楽しんでいる。認知症による食事摂取に課題のある利用者には職員が丁寧に介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせお粥や一口大にして提供している。摂取量や水分量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けによりその方にあつた方法で行っている。義歯は夕食後必ずポリデントを使用し保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行ったりリハビリのみで行ける方パットが必要な方のそれぞれに応じて対応し失禁、失便が少なくなるように支援している。	尿意があり、トイレの場所を知っているという排泄の自立をしている利用者は4人、他の人はリハビリとパットを使用、排泄パターンを把握している職員が個別に声掛けしトイレでの排泄を支援している。排便は水分提供と運動で支援、屯用の下剤の使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂っていただく事やラジオ体操などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	現在は毎日午後から入浴の日としているがその日の体調等考慮しながら判断している。利用者のタイミングで好きな時間帯での入浴ができるという本来の理想的なところにまでは至っていない。	浴室の入口にかけた布製のきれいなのれんが柔らかい雰囲気をだしている。中は比較的広くユニットバスを据えている。午後の時間帯で毎週2回の入浴を支援している。湯温は利用者の好みに添って調節している。利用者はゆったりと湯に浸かり、介助の職員との会話を楽しんでおり、その時間を大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人就寝時間が違うので無理に消灯することはない。自由に過ごしていただいている。居室内の温度に気を付けて今の季節は濡れタオルを居室内に掛けさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に一度の訪問診療後、職員は薬の説明に目を通して把握している。また薬局の担当ともすぐに相談できる体制となっているので相談、確認もとれる体制である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝8時半にコーヒー、午後14時半にはおやつとしてお菓子もしくは果物とコーヒーを提供している。天気の良い日は散歩にのっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿い天候や体調に合わせて近隣に散歩へ行っている。紅葉やお花見などイベント時には車でドライブに出かける。	気候が良く、天気が好ければ利用者は車椅子の人も含めてホームの周りを散歩している。よく歩く人は30分くらいかけて歩き、途中で帰ってくる人等もある。暑い日や寒い日でも玄関前のポーチや洗濯物干場のあたりで日光浴や外気浴をしている。乃木神社への初詣、黄檗公園での花見や紅葉狩り等、季節ごとにドライブを楽しんでいる。利用者から好きなおやつや洋服を買いいたいという希望があれば、職員がスーパーや洋服専門店に同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は御家族様から小口としてお預かりし管理しているが自己管理できる方で少額のお金を持っておられる方もおりジュースを施設の前の自販機で買うことを楽しんでおられる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話のやり取りができるようにしている。はがき等も希望があれば購入できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや壁飾りを毎月作成しきせつをかんじていただけるようにしている。	玄関前にポーチがあり、建物の横に陽のよく当たる洗濯物干場がある。エレベーターで上にあがると2階と3階がグループホームである。ユニットのドアの手前に下駄箱を置き、上に季節の花を飾っている。ドアを開けると左右に廊下が延び居室や浴室が並び、浴室の布製のれんが家庭的である。中央に大きな窓から光が入り明るくゆったりしたミニキッチン付きの居間兼食堂がある。壁には大きなカレンダーとその周りに折り紙で作ったしめ縄、門松、鏡餅、羽子板、凧等季節の飾りをつけている。少し離れた場所にソファを置き、利用者の居場所を作っている。認知症の混乱を招くような大きな音や強い光はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し利用者様同士でTV鑑賞や談話ができるようなスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や馴染みのものを持ち込み安心して過ごしていただけるよう御家族と相談しながら工夫している。	居室は洋間、ベッドとクローゼットを備え付けている。使い慣れたベッドを持ってきている人もある。筆筒、衣装ケース、机と椅子、テレビ、小物入れ等馴染みの家具を持ち込んでいる。ベッドの上の布団や毛布、仏壇、机の上の愛読書、ノートや筆記具、小物入れの上に並べている置時計、マスコット、椅子の上の小さなぬいぐるみ、壁に掛けている自作の精巧な塗り絵、思い出の記念写真、誕生会に職員からプレゼントされた色紙等、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人のADLIに合わせて職員見守りの中出来ることはなるべく御自身でやって頂けるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週、本部より送られてくる朝礼により職員全員が認識実践出来る様に努力している。	以下の項目すべて1号館に同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の防災訓練等に参加したり近くの小学校の生徒さんとの交流もあり少しずつ地域の方へも受け入れて頂いている。利用者様も楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の生徒さんの社会見学の場として施設の開放や集会時には駐車場の貸し出した町内の掲示板の設置場所を貸し出し協力をさせていただいている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状や行事、問題点などを報告し参加者からご意見を頂戴し施設運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当ケースワーカーと密に連絡を取り運営推進会議にも参加いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会等を行い各職員が認識をし基本的拘束ゼロの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が虐待への認識、理解を高め職員同士のカンファレンスの機会を持ち対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者が後見人や日常生活自立支援事業を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を心がけ御不明な点があればいつでも聞いていただける様説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日頃からお話を伺う時間を取り家族様面会時にはケアに対する要望等聞きプランを検討している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員のいけんや提案を聞く機会を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指し何でも話せ相談できる職場を目指している。やる気があり向上心のある方には研修等を受けて社員としてのステップアップの道もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトを調整し希望があれば積極的に参加できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所の運営推進会議やクリスマス会などに職員と参加し他の施設を見る事により勉強させて頂く良い繋がりが持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の生活に慣れて頂く為に御本人に合った生活リズムに合わせ職員とのコミュニケーションを計り不安を取りのぞく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望を把握し話しやすく相談しやすいように笑顔での関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通し本人様の状態を確認し本人、家族の要望を聞いたりサービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共にお手伝いをお願い出来る事は行って頂き一緒に取り組む努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様からの信頼を得る事を第一とし関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡時に次回の来訪を促す。近隣ではあるが外出支援を行っている。(乃木神社等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置の工夫や会話の橋渡しを行い円滑なコミュニケーション作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談に乗れる体制作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて御本人様の意思確認を行ない想いに寄り添う時間を作れるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からお話を伺い御本人様からも日常の会話を通じ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から情報をスタッフと共有し申し送り様子観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや気づきをスタッフ同士で話し合い家族様へ報告または要望を伺い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで情報を共有しスタッフの意見をまとめケアを実践する努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や訪問歯科等ニーズに応じて支援出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学生との交流によって頭、体を使ったゲームで楽しんだりボランティア活動によるアレンジフラワーを作って楽しめるような企画をし支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療による定期的な診察により健康管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師と申し送りや記録ノートにより連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より提携病院との地域連携室等と連絡を取り合い情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族と話し合いを持ち出来る事と出来ない事を説明し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急jの対応マニュアルを定期的に各職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練も職員、利用者様と一緒に消防署立会いの元、年2回参加し避難の方法を学んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し一人一人に合わせたお声掛けを常に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で関わり合いを大切にし本人の思いを尊重し何でも話し合える関係が出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその方のペースや希望を尊重し施設が出来る範囲で思い思いに過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容も月1回行っている。衣類等も御本人の好みのものを着ていただける様心がける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日2回、昼、夜と宅配を利用してる。盛付等の工夫をし月に2回手作りの日を設け利用者の要望に沿えるよう行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて刻み。トロミ食の食事を提供している。個人別に食事摂取量、水分量のチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者ADLに合わせ声掛けまたは介助にて毎食後、行っている。訪問歯科の指導内容を把握する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し排泄パターンを把握する。声掛けによりトイレでの排泄を促す。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を促し昼食前に毎日、体操をしたり廊下での歩行運動など行って頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人に応じた入浴時間を考慮しせかすことがないようにリラックスして入浴して頂く努力を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ適切な居室温度の配慮をし就寝時間を決めることなくマイペースに過ごして頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、申し送りで職員が薬の管理が出来る様にする。看護師にも確認し知識を深める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや居室掃除、植物の水やりなど意欲に応じ役割分担を決める。家族様と協力し好みのお菓子等、本人希望時に提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の体調、意思などを観ながら天気の良い時に近隣に散歩に出かけたリイベントでドライブ等の外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様から小口として預らせていただき利用者様の必要な物、希望の物があれば職員と一緒に買い物の同行をさせて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等、御本人希望であれば職員が仲介に入り支援させて頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に季節ごとに飾りつけをし月ごとにカレンダーを作成し季節を感じて頂く。空調にて温度調整を行い時折、換気をさせて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者様が思い思いの場所に行けるよう各場所に座れる場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が愛着のある物を持ってきていただき安心して暮らして頂く。御家族様、御本人様の意見を確認しながら居室の整理整頓が出来る様心掛ける。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせ出来る事はして頂く。残存機能を維持できるよう声掛け等にて支援する。排泄等も日中トイレで排泄出来る様支援する。		